

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170100665		
法人名	株式会社 パラディ		
事業所名	グループホーム 長寿の里		
所在地	佐賀県佐賀市北川副町大字光法1593-1		
自己評価作成日	平成25年1月11日	評価結果市町村受理日	平成25年4月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html">http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成25年1月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム「長寿の里」の基本理念は『一緒にゆっくりと楽しく・残された力で暮らしの喜びと自信を見出す・「してあげる」ケアから「一緒に過ごす」ケアを』を掲げ、利用者がそれぞれのんびり、ゆったりと、安全に生活出来るように心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム「長寿の里」は、交通量の多い主要道に駐車場を隔てて接しているが、事業所の裏はクレークや田畑に面していて、事業所内では車の騒音もなく、穏やかな空間の中で、のどかな時間がゆっくり過ぎていくように感じられる事業所である。管理者、職員は、理念の実践に向け、共同生活者の目線で入居者へ介護支援・生活援助が行われている。また、食事の充実にも力を入れられ、普段の食事メニューの他、手作りの漬物、行事イベント等では、季節感を味わえる料理を提供されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき実践につなげるようにしている。	事務所とリビングに理念を掲示し、ミーティング時に理念の確認と振り返りが行われる。理念にそぐわない支援が行われている場合は、その都度話し合いを行い、理念の共有が図られている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の人と会えば挨拶を行っている。回覧板やゴミ置き場の鍵、掃除の順番に入れてもらっている。	隣保班総会、地域清掃等への参加、夏祭り時の近隣住民への参加呼び掛け等を通じ、地域への関わりが図られている。また、中学校より職場体験交流が行われ、地域交流に努められている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事等の参加の声かけがあれば参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの行事や入居者の暮らしぶり、取り組み等を報告し、参加者からの質疑応答に応じたり、アドバイスを頂いたりしている。	運営推進協議会は2ヶ月に1回開催され、各関係機関からの参加があり、状況報告や問題点の質疑が行われ、施設運営に活かされている。家族会からも代表の方が毎回参加され、家族会で議事内容の報告が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居の問い合わせがあれば相談に応じたり、分からない事があれば問い合わせを行っている。	市や広域連合の担当者、地域包括支援センターにも、普段から不明点や疑問点について確認を取り、研修会等の開催時には努めて参加し、連携に努められている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	鍵をかけないように努めているが、利用者の玄関や居室窓からの離園がある時は、施錠する事もある。	施錠等がやむを得ない場合には、家族への説明を行い理解・同意を求められている。また、施設内で身体拘束についての研修会や、外部の研修会への参加を行い、職員への周知徹底と職員の資質向上に努められている。	施錠等がやむを得ない場合には、期限を決めて、その記録や解除に向けた検討を行うことが望まれる。また、今後は施錠に頼らない利用者への関わりに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成し、スタッフ会議で話し合い、勉強する機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフ会議で勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時・解約時は十分な説明を行い、理解・納得を得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・意見箱の設置と、家族面会時に個別に話しをしたりしている。	普段より、家族面会時に意見や要望についての丁寧な聞き取りを行い、年1回の家族会時にも意見・要望の聞き取りが実施され、施設運営に活かされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にスタッフ会議を行っている。	普段から、介助支援時やスタッフ会議の時に職員から自主的な意見が出ており、管理者はそれを取りまとめている。管理者・職員全員で一緒に考えながら、施設運営に対して取り組まれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	状況の把握はされていると思うが、スタッフとの交流がない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	状況の把握はされていると思うが、スタッフとの交流がない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の勉強会や研修参加は、希望し承諾が得られれば参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面談する機会を設け、情報収集するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族と面談する機会を設け、情報収集するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族と話し合いの場を設け支援内容を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の利用者の状態に応じて、日常生活の中で洗濯物たたみや食後の片づけ等を一緒に行うようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に利用者の状態を話しをするように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族会の実施や知人の面会により、継続的な交流ができるようにしている。年賀状や電話を使い関係が途切れないように努めている。又、長寿だよりを毎月発行し家族へ送っている。	来訪された知人など、再訪してもらえるよう配慮に努め、外出時に実家付近への訪問、家族の方の協力による馴染みの理容室での散髪など行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各入居者の性格や認知症の症状を職員が理解し個々にあった関わりが出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も手紙を出したり、必要時連絡を取っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者のこれまでの暮らしぶりを尊重し、家族からの情報も得ながら一人一人が希望する生活把握に努めている。	入居時に、本人や家族からこれまでの暮らしぶりや、思い、意向の聞き取りを行うとともに、普段から本人の思いや意向を聞き取るように努めている。スタッフ会議等で情報の共有が図られている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族からの情報収集を行っている。又、家族以外で、生活支援センター等外部からの紹介の場合は、担当の方からも可能な限り情報収集を行うようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	情報収集を基に総合的に把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心に、本人、家族の思いや希望を聞き取り、職員の意見を踏まえ、介護計画を立てている。	家族意見や、ケア会議を開催し各職員からの意見をもとに、ケアプランを作成している。定期的・随時に見直し、現状に合った介護計画となるように努められている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	月一回のモニタリング、支援経過の記録に行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、通院介助、買い物等の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や外部からの情報を収集し、参加したり、来所してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の主治医の受診を基本とし、本人、家族の希望があれば協力医療機関への変更も可能。	かかりつけ医は、本人、家族の希望とし、医療機関との緊急時の対応の確認、家族の協力による定期受診が行われ、適切な医療が受けられるように努められている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態変化時は看護師に相談し受診や看護を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はスタッフが同行し、病院関係者との情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアにむけた指針があり、家族の意向を聞き取り、主治医との話し合いを行い支援している。	入居時の段階から、本人や家族に事業所の方針を説明している。重度化した場合は、家族、主治医と話し合い、方針を共有している。ターミナル期の支援体制もあり、看取りを実践されている。勉強会も定期的に行われ、職員の資質の向上に努められている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年2回行っている。	夜間想定火災訓練が、全職員参加し年2回行われている。台風などでの停電時の電源も確保されている。	今後は、近隣住民や消防団等の地域との協力体制作りや、災害時の具体的な連携体制の構築に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者のこれまでの生活を尊重し、本人や家族からの情報を得て、一人一人に合わせた対応に心掛けている。	入居者一人ひとりの生活歴や人格を尊重し、状態に応じた入浴介助、トイレ誘導、他入居者へ配慮した言葉かけ等の支援が行なわれ、スタッフ会議で対応の共有が図られている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	リクレーションや、洗濯物たたみ等の時、声掛けや参加を促すが拒否される場合は無理強いしないようにし、時間をずらし再度声掛けや参加促しを行うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日光浴や散歩等本人の希望があれば、対応し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で身だしなみが整えられる方には、見守りをし、出来ない方には介助を行っている。状況をみて訪問散髪に来てもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々のレベルに応じて、配膳、片づけ等を利用者と共に行い、皆で食事の時間を楽しく過ごせるように努めている。	個人の好みや希望を聞き献立を作られている。配膳やテーブル拭き等その方の能力に応じた支援もなされている。また、行事ごとの特別メニューに力を入れられ、事業所の特色の一つとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	家族から以前の状況を聞いたり、入居時に本人のかかりつけ医からの病状書を持参していただいたりしている。入居後は主治医の指示や病状に応じて相談し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に応じた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、時間や習慣の把握をし、尿便意の曖昧な利用者は、定時で、トイレ誘導やオムツ交換を行っている。	その方の排泄の習慣を把握し、一日の排泄パターンをチェック表で読み取りながら、トイレ誘導を行い、可能な限り排泄の自立を目指した支援に努められている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材の工夫や毎朝のラジオ体操等や、水分補給などを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴を実施しているが、拒否があった場合は時間をずらして再度声かけを行ったり、入浴日の変更を行ったりしている。	入居者の方のその時の状態・状況に応じ、入浴時間や入浴日の変更に柔軟に対応している。個人個人に応じた入浴支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	これまでの生活習慣を考慮しつつ、また出来る限りの自然な生活リズムを整えられるよう日中の活動、午睡などを利用者本位で促し安眠や休息の支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のケース記録に薬の能書きをファイルし、スタッフがいつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	大正琴の持ち込みで演奏されたり、カラオケで皆で歌ったりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の希望があれば支援するよう努めている。	過ごしやすい季節に庭へイスを出して、戸外での日光浴を実施したり、敷地内や施設周辺への散歩も行われている。また、入居者の希望による家族協力での外出も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、自己管理をされている方がいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人や家族の希望があれば、やり取りできるよう支援し、携帯電話の持ち込みにて電話をされる利用者もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間については、安全面、衛生面に配慮し、又飾り付けなどを施し、居心地良く過ごせるよう努めている。	玄関先にイベント時の写真を掲載したり、廊下奥にはソファや鉢植えの花が置かれ、入居者間で談話が出来るようにし、和める雰囲気づくりに努められている。また、乾燥防止の為、加湿器を複数台設置され、居心地の良い空間づくりに取り組まれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々に自由に過ごせるようリビングや廊下にソファを設置している。他利用者の居室でお互い談笑されることもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談し自宅で使い慣れた家具を持参してもらい、居心地良く過ごせるよう努めている。	居室には、危険物以外は何でも持ち込み可能で、家族写真や趣味の作品や好みの品、昔から使われていた物等を置かれ、入居者の方の好みの部屋作りがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室や風呂場等に表札をつけている。出来る限り自由な生活を送って頂き、好きな所へ行けるようにしている。		